

## II 住民基本台帳人口(日本人住民)による社会動態

### 1 概 要

平成29年の社会動態は、市外からの転入が4万3,126人、市外への転出が4万1,838人で、1,288人の転入超過となりました。

これを地域別にみていくと、仙台都市圏内の他市町村、東京圏及びその他の地方に対して転出超過となっています。また、仙台都市圏以外の市町、東北5県に対しては転入超過となっています。

この結果、区間移動と職権記載等の「その他増加数」を加えた社会増加数は1,775人となり、平成25年より続いた減少傾向は、5年ぶりに増加に転じました。

(表2、図6、統計表第2表、統計表第3表)

表2 市外との移動：転入数、転出数、社会増加数の推移—全市（平成20年～平成29年）

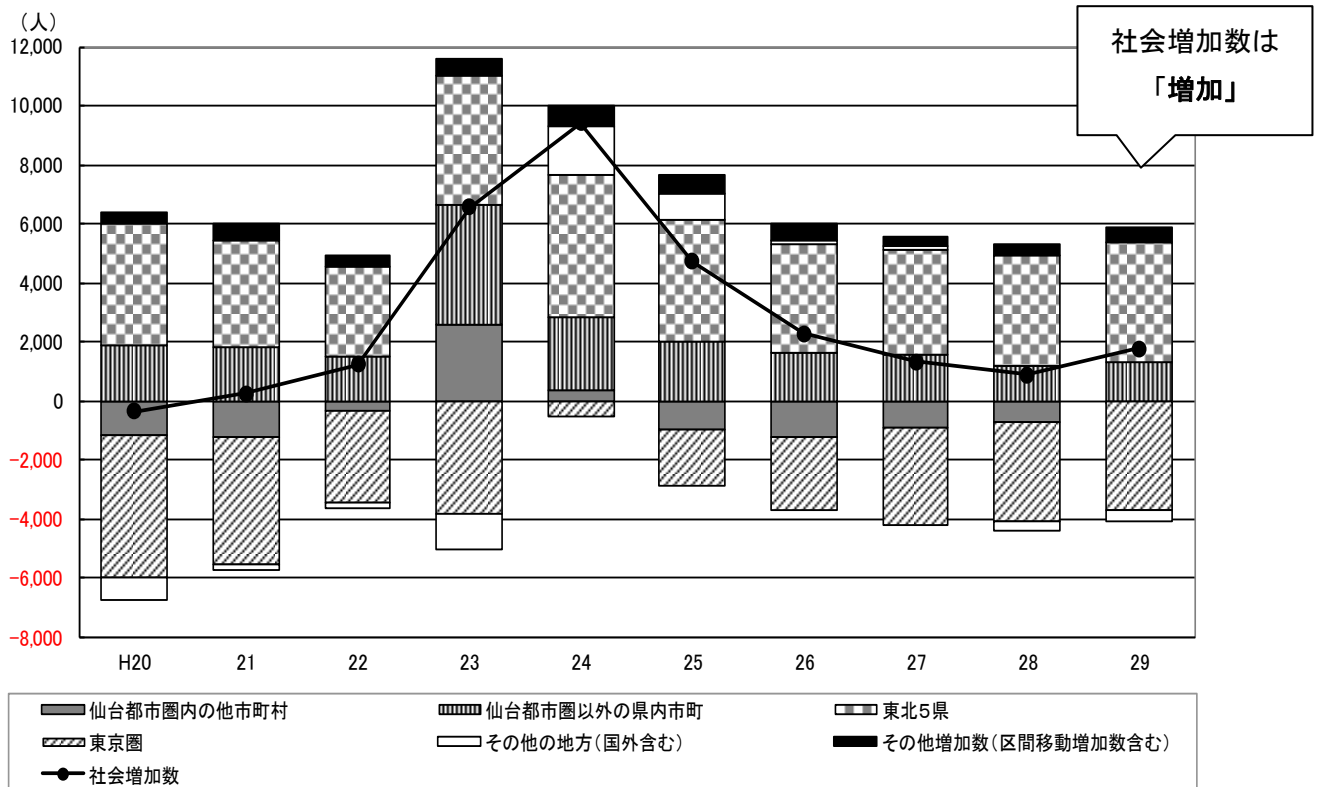
地 域	平 成 20 年	21	22	23	24	25	26	27	28	29
<b>転 入 数</b>	<b>47,128</b>	<b>45,295</b>	<b>43,976</b>	<b>49,914</b>	<b>49,547</b>	<b>47,035</b>	<b>44,802</b>	<b>44,837</b>	<b>43,089</b>	<b>43,126</b>
宮城県	11,978	11,336	11,362	16,179	11,986	11,708	11,087	11,309	10,554	10,965
仙台都市圏内の他市町村	5,911	5,613	5,842	8,272	5,965	5,778	5,456	5,756	5,397	5,701
" 以外の市町	6,067	5,723	5,520	7,907	6,021	5,930	5,631	5,553	5,157	5,264
東北5県	14,821	14,051	13,048	14,237	13,963	13,525	13,044	13,231	12,826	12,996
東京圏	10,848	10,505	10,659	9,936	12,361	11,210	10,797	10,551	10,486	10,179
その他の地方(国外含む)	9,481	9,403	8,907	9,562	11,237	10,592	9,874	9,746	9,223	8,986
<b>転 出 数</b>	<b>47,917</b>	<b>45,636</b>	<b>43,085</b>	<b>43,983</b>	<b>40,782</b>	<b>42,938</b>	<b>43,044</b>	<b>43,846</b>	<b>42,545</b>	<b>41,838</b>
宮城県	11,287	10,783	10,201	9,519	9,176	10,693	10,682	10,689	10,119	9,660
仙台都市圏内の他市町村	7,116	6,857	6,186	5,672	5,592	6,752	6,672	6,668	6,120	5,711
" 以外の市町	4,171	3,926	4,015	3,847	3,584	3,941	4,010	4,021	3,999	3,949
東北5県	10,736	10,420	10,003	9,902	9,091	9,380	9,395	9,627	9,053	8,937
東京圏	15,627	14,798	13,780	13,796	12,925	13,147	13,279	13,890	13,868	13,854
その他の地方(国外含む)	10,267	9,635	9,101	10,766	9,590	9,718	9,688	9,640	9,505	9,387
<b>社会増加数</b>	<b>△ 789</b>	<b>△ 341</b>	<b>891</b>	<b>5,931</b>	<b>8,765</b>	<b>4,097</b>	<b>1,758</b>	<b>991</b>	<b>544</b>	<b>1,288</b>
宮城県	691	553	1,161	6,660	2,810	1,015	405	620	435	1,305
仙台都市圏内の他市町村	△ 1,205	△ 1,244	△ 344	2,600	373	△ 974	△ 1,216	△ 912	△ 723	△ 10
" 以外の市町	1,896	1,797	1,505	4,060	2,437	1,989	1,621	1,532	1,158	1,315
東北5県	4,085	3,631	3,045	4,335	4,872	4,145	3,649	3,604	3,773	4,059
東京圏	△ 4,779	△ 4,293	△ 3,121	△ 3,860	△ 564	△ 1,937	△ 2,482	△ 3,339	△ 3,382	△ 3,675
その他の地方(国外含む)	△ 786	△ 232	△ 194	△ 1,204	1,647	874	186	106	△ 282	△ 401
※参考										
その他増加数	423	582	341	609	654	631	516	334	339	487
" を含む社会増加数	<b>△ 366</b>	<b>241</b>	<b>1,232</b>	<b>6,540</b>	<b>9,419</b>	<b>4,728</b>	<b>2,274</b>	<b>1,325</b>	<b>883</b>	<b>1,775</b>

(△は転出超過数)

※「その他増加数」には職権記載・消除、国籍取得・喪失等のほかに、市内区間移動増減数が含まれています。

図6 転出入超過数の地域別内訳 (平成20年～29年)

※地域別内訳の詳細については、図7～11を参照ください

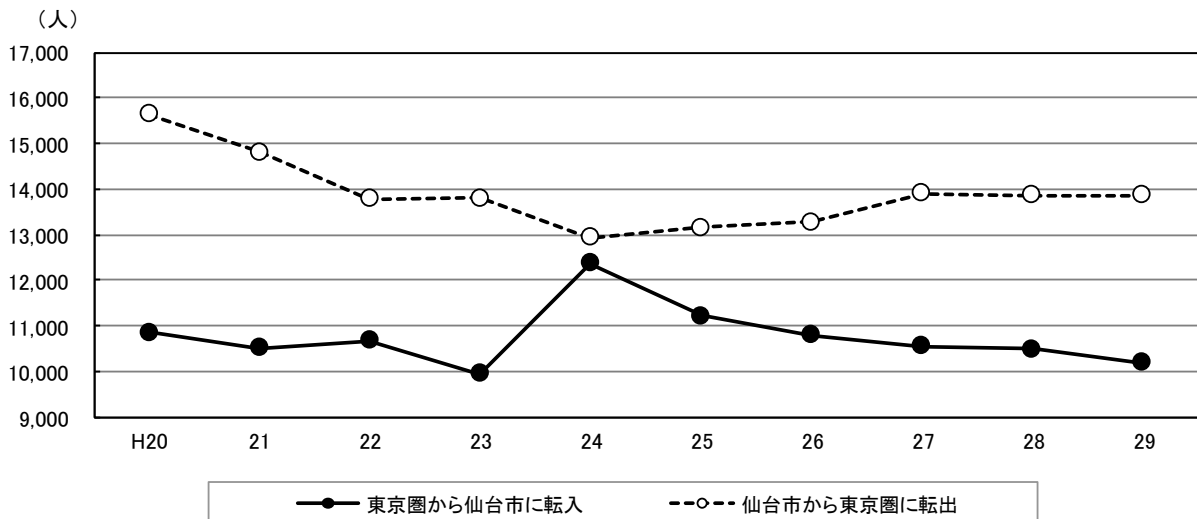


## 2 東京圏に対する人口移動

東京圏に対する人口移動は、転入数が1万179人、転出数が1万3,854人で、3,675人の転出超過となりました。東日本大震災の翌年(H24年)に転入数が大きく増加したものの、近年は減少傾向が続いており、転出数との間には依然として大きな差があります。

(表2、図6、図7、統計表第2表)

図7 東京圏との転出入数 (平成20年～29年)

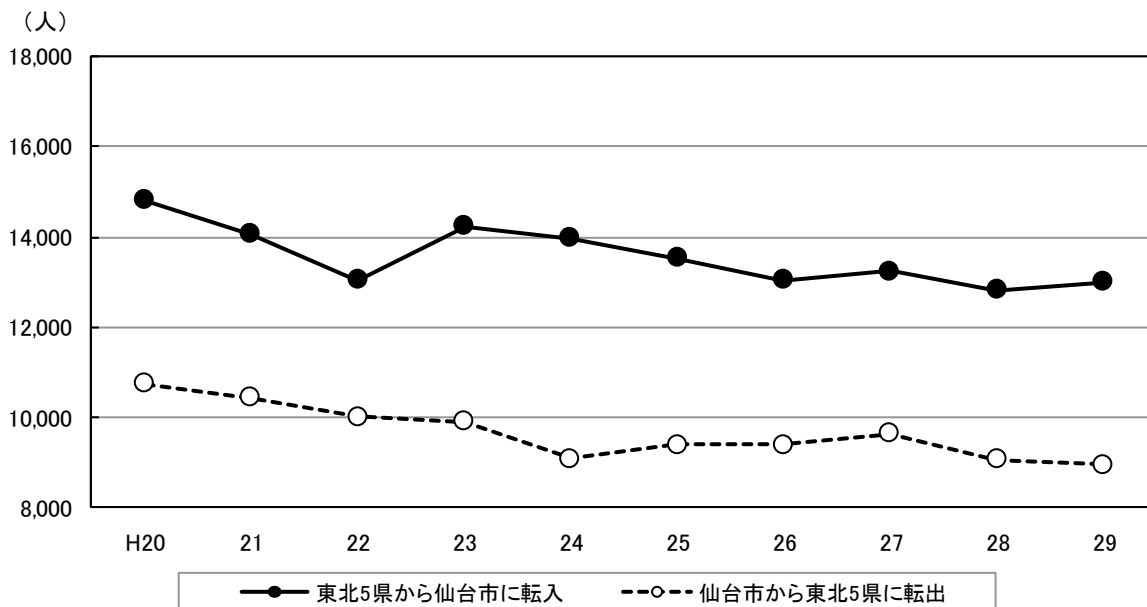


### 3 東北5県及びその他の地方（国外含む）に対する人口移動

東北5県に対する人口移動は、転入数が1万2,996人、転出数が8,937人で、4,059人の転入超過となりました。転入数は昨年と比べ微増となりましたが、転出数は減少傾向が続いています。

(表2、図6、図8、統計表第2表)

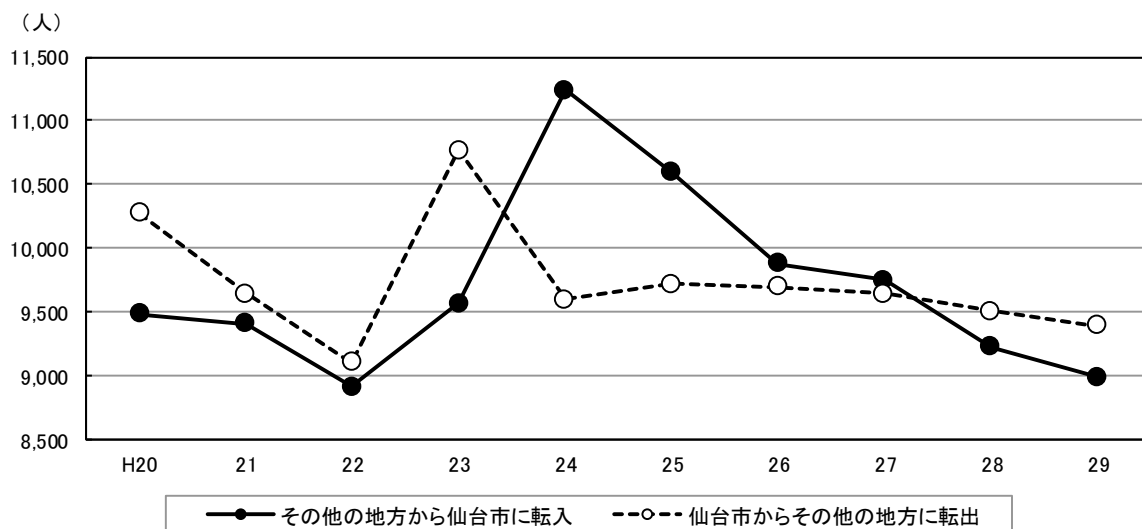
図8 東北5県との転出入数（平成20年～29年）



その他の地方（国外含む）に対する人口移動は、転入数が8,986人、転出数が9,387人で、401人の転出超過となりました。

(表2、図6、図9、統計表第2表)

図9 その他の地方との転出入数（平成20年～29年）

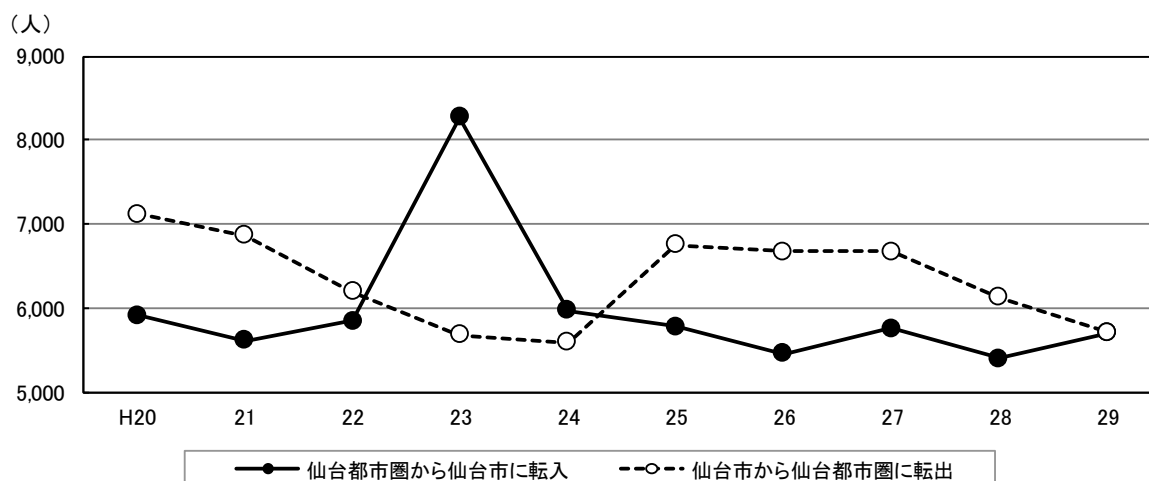


#### 4 県内他市町村に対する人口移動

仙台都市圏内の他市町村に対する人口移動は、転入数が5,701人、転出数が5,711人で、10人の転出超過となりました。近年1,000人前後の転出超過が続いていましたが、転入数と転出数の差は小さくなりました。市町村別の内訳をみると、転入超過となっているのは10市町村、転出超過となっているのは3市となっています。

(表2、図6、図10、統計表第3表)

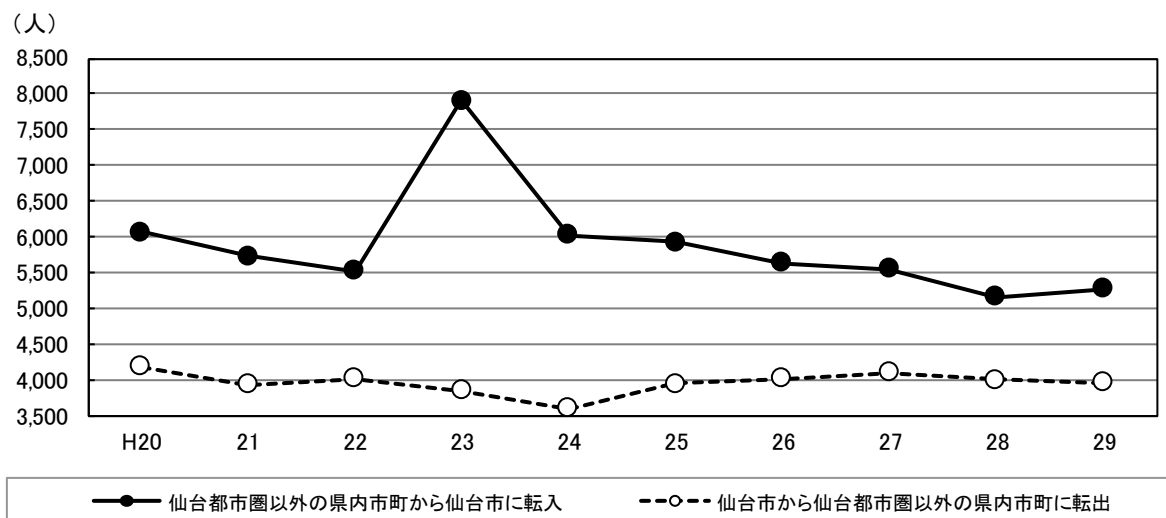
図10 仙台都市圏との転出入数（平成20年～29年）



仙台都市圏以外の県内市町村に対する人口移動は、転入数が5,264人、転出数が3,949人で、1,315人の転入超過となりました。

(表2、図6、図11、統計表第3表)

図11 仙台都市圏以外の県内市町村との転出入数（平成20年～29年）



## 5 区別の社会動態

平成 29 年の区別社会動態は、青葉区、若林区、太白区で社会増となり、他 2 区で社会減となりました。その内訳について、次のような点が特徴として挙げられます。

- ① 市内他区に対しては、青葉区、宮城野区、泉区で転出超過。他 2 区は転入超過。
- ② 県内市町村に対しては、全区で転入超過。
- ③ 東北 5 県に対しては、全区で転入超過。
- ④ 東京圏に対しては、全区で転出超過。
- ⑤ その他の地方に対しては、若林区を除く 4 区で転出超過。

(表 3、図 1 2、統計表第 4 表)

図 1 2 地域別社会増加数（転入数－転出数）－区（平成 24～29 年）

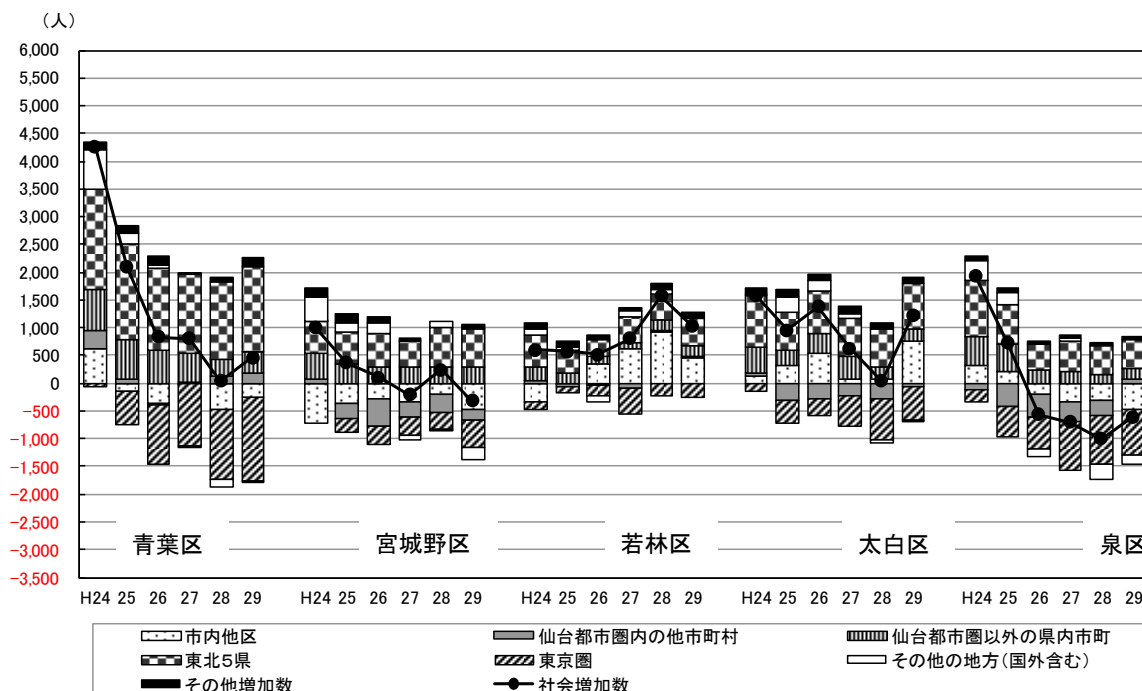


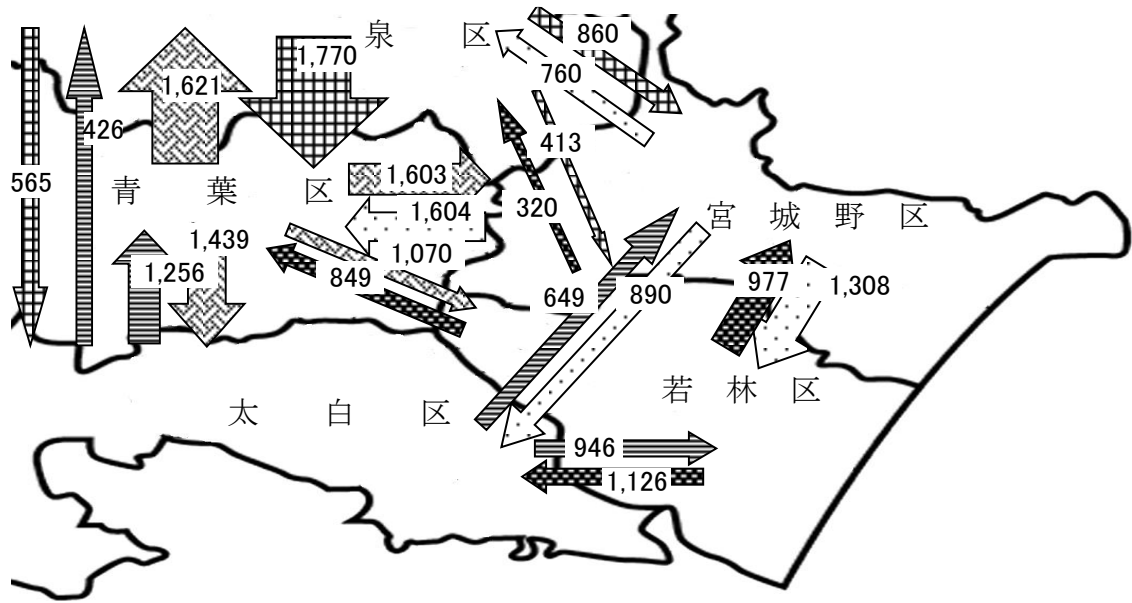
表3 社会増加数の地域別内訳一区（平成24年～29年）

（単位：人）

区, 年次	社会 増加数	市内 他区	宮城県		東北 5県	東京圏	その他の 地方 (国外含む)	その他 増加数	
			仙台都市 圏内の 他市町村	仙台都市 圏以外の 市町					
<b>青葉区</b>									
平成24年	4,271	628	1,059	329	730	1,797	△ 75	715	147
25	2,086	△ 133	776	84	692	1,742	△ 611	173	139
26	831	△ 374	589	△ 11	600	1,467	△ 1,077	70	156
27	803	△ 9	537	30	507	1,415	△ 1,125	△ 17	2
28	39	△ 488	439	124	315	1,383	△ 1,247	△ 129	81
29	461	△ 250	577	178	399	1,528	△ 1,519	△ 22	147
<b>宮城野区</b>									
平成24年	1,009	△ 720	534	78	456	569	13	427	186
25	364	△ 368	70	△ 271	341	587	△ 249	157	167
26	106	△ 280	△ 193	△ 484	291	615	△ 337	168	133
27	△ 205	△ 344	32	△ 254	286	483	△ 350	△ 82	56
28	238	△ 191	△ 34	△ 327	293	722	△ 320	88	△ 27
29	△ 316	△ 473	101	△ 203	304	668	△ 492	△ 202	82
<b>若林区</b>									
平成24年	602	△ 337	292	32	260	562	△ 143	120	108
25	576	△ 4	132	△ 57	189	406	△ 112	53	101
26	522	333	95	△ 45	140	315	△ 183	△ 106	68
27	806	621	28	△ 90	118	462	△ 466	94	67
28	1,569	933	206	19	187	454	△ 218	101	93
29	1,024	465	201	17	184	512	△ 258	20	84
<b>太白区</b>									
平成24年	1,424	△ 32	507	54	453	933	△ 135	35	116
25	959	306	△ 28	△ 308	280	683	△ 417	279	136
26	1,383	534	75	△ 287	362	778	△ 291	190	97
27	627	77	172	△ 242	414	688	△ 530	65	155
28	33	68	△ 70	△ 287	217	695	△ 722	△ 56	118
29	1,217	744	167	△ 66	233	833	△ 597	△ 25	95
<b>泉区</b>									
平成24年	2,113	472	418	△ 120	538	1,011	△ 224	350	86
25	743	212	65	△ 422	487	727	△ 548	212	75
26	△ 568	△ 209	△ 161	△ 389	228	474	△ 594	△ 136	58
27	△ 706	△ 337	△ 149	△ 356	207	556	△ 868	46	46
28	△ 996	△ 320	△ 106	△ 252	146	519	△ 875	△ 286	72
29	△ 611	△ 479	259	64	195	518	△ 809	△ 172	72

※「その他増加数」には職権記載・消除、国籍取得・喪失等が含まれています。

図 1 3 区間人口移動（平成 29 年 転入ベース）



転入ベースで区間相互における人口移動をみると、最も人口移動が多いのは、青葉・泉区間で 3,391 人（=1,621 人+1,770 人）となっています。逆に最も人口移動が少ないのは、若林・泉区間で 733 人（=320 人+413 人）となっています。（図 1 3）

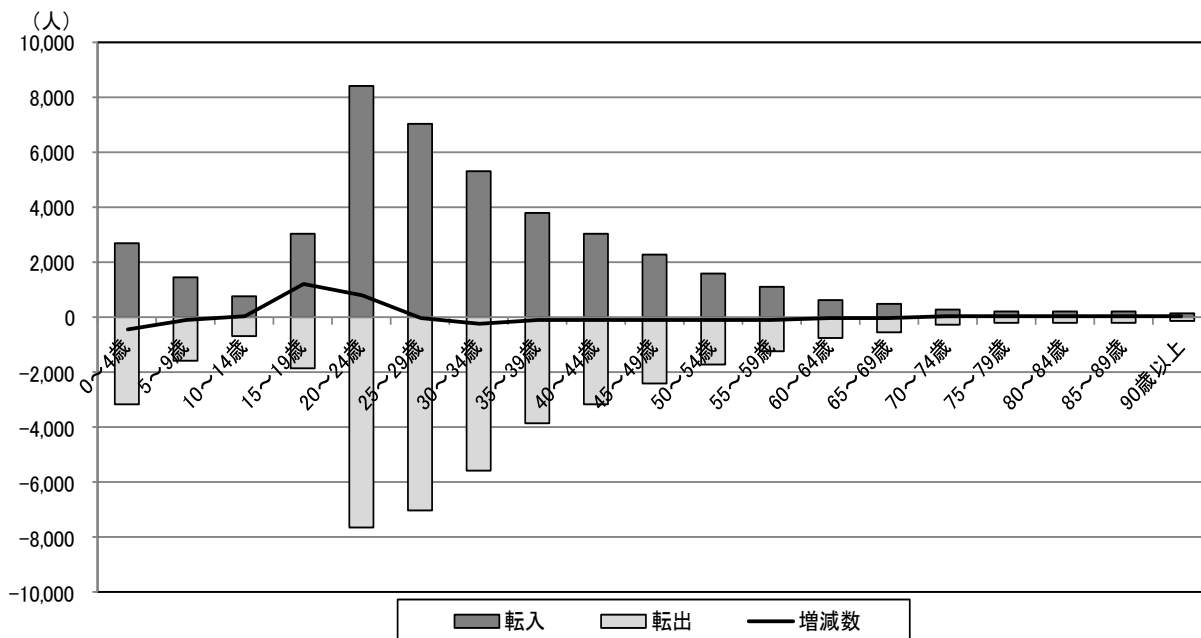
転入・転出の差し引きによる、区別の対市内各区社会増減をみると、青葉区は若林区、太白区に対して転出超過で、全体では 250 人の転出超過となっています。宮城野区は泉区を除く 3 区に対して転出超過で、全体で 473 人の転出超過となっています。若林区は太白区を除く 3 区に対して転入超過で、全体では 465 人の転入超過となっています。太白区はすべての区に対して転入超過で、全体では 744 人の転入超過となっています。泉区は全ての区に対して転出超過で、全体では 479 人の転出超過となっています。また、相互間の移動数に最も差があるのは宮城野・若林区間の移動で、若林区は 331 人（=1,308 人-977 人）の転入超過となっています。

（表 3、統計表第 4 表）

## 6 年齢（5歳階級）別の人口移動

年齢（5歳階級）別の人口移動をみると、転入数・転出数とも最も多い年齢は20～24歳で、転入数8,442人、転出数7,620人でした。（図14、統計表第5表）

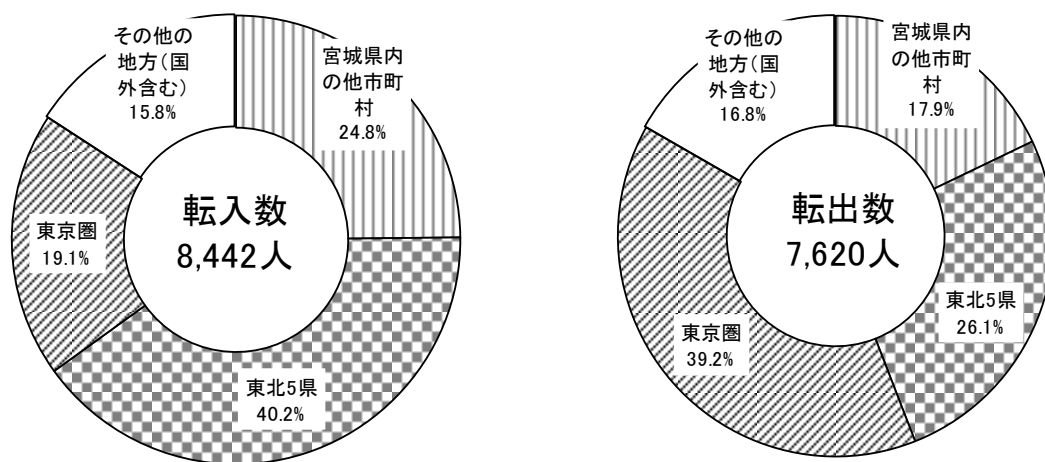
図14 年齢（5歳階級）別転出入数（平成29年）



20～24歳における転出入数を地域別にみると、転入割合が最も大きいのは東北5県からの転入（40.2%）で、次いで、宮城県内の他市町村からの転入（24.8%）、東京圏からの転入（19.1%）、その他の地方からの転入（15.8%）となっています。また、転出割合が最も大きいのは東京圏への転出（39.2%）で、次いで、東北5県への転出（26.1%）、宮城県内の他市町村への転出（17.9%）、その他の地方への転出（16.8%）となっています。

（図15、統計表第5表）

図15 転出入数の地域別割合—20～24歳（平成29年）





次に、年齢（5歳階級）別の人口移動における社会増減数をみると、転入超過数が最も多かったのは15～19歳の1,214人（=3,072人-1,858人）で、転出超過数が最も多かったのは0～4歳の△414人（=2,724人-3,138人）でした。15～19歳における転入数を地域別割合でみると、最も大きいのは東北5県からの転入（51.0%）で、次いで、宮城県内の他市町村からの転入（23.0%）、その他の地方からの転入（15.7%）、東京圏からの転入（10.3%）となっています。

また、0～4歳における転出数を地域別割合でみると、最も大きいのは宮城県内の他市町村への転出（29.6%）で、次いで、東京圏への転出（27.0%）、その他の地方への転出（24.6%）、東北5県への転出（18.9%）となっています。（図16、統計表第5表）

図16-1 転出入数の地域別割合  
-15～19歳（平成29年）

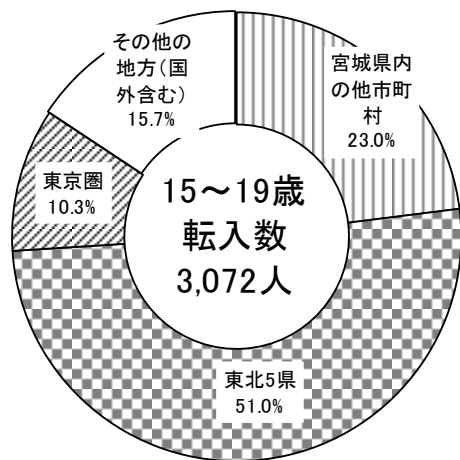
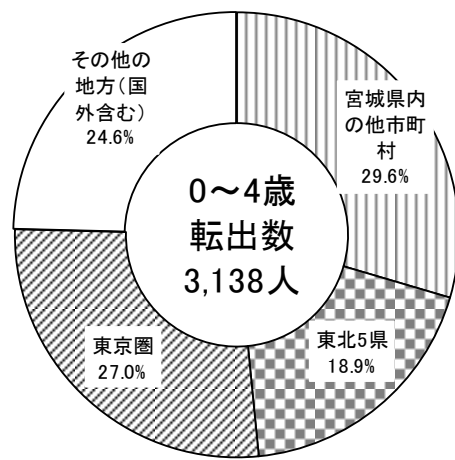


図16-2 転出入数の地域別割合  
-0～4歳（平成29年）



平成26年以降の年齢（5歳階級）別の人口移動の推移をみると、転入超過数については、4年連続で15～19歳が最も多く、転出超過数については、平成27年は30～34歳が最も多いが、平成26・28・29年は0～4歳が最も多くなりました。（図17、統計表第5表）

図17 年齢（5歳階級）別の人口移動の推移（平成26～29年）

